

# 『第56回治山研究発表会』が開催されました

## 計画保全部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が平成28年9月26日、27日に東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで各森林管理局、地方公共団体、各大学、民間事業体等の参加のもと開催されました。

### 【治山研究発表会】

1日目の発表会に先立ち、茨城大学広域水圏環境科学教育センターの



発表する堀内設計指導官

桑原祐史教授から「治山におけるリモートセンシング技術の応用」と題しての特別講演が行われ、衛星リモートセンシングの種類と特徴、衛星観測技術の動向等の紹介と治山事業へのリモートセンシング技術活用の可能性が紹介されました。

※衛星リモートセンシングとは人工衛星に専用の測定器（センサー）を載せ、地球を調べる（観測すること）。

- 本発表会では
- 1 「荒廃地調査と復旧対策等の取組」
  - 2 「防災林の造成」
  - 3 「違法開発への対応強化等の取組」
  - 4 「施設の維持管理・木材の利用等の取組」の4つのセクションに48課題が発表されました。

当局からは、「荒廃地調査と復旧対策等の取組」のセクションに、治山課堀内設計指導官と朝日航空株式会社東京防災コンサルタント部の小林裕太氏及び同社東日本航空支社第一営業部の加藤真也氏による「航空

実播工における新たな取り組みと奥地・寒冷地の三次元写真計測と散布材料に関する考察」を発表しました。

※航空実播工とはヘリコプターを使用して種子等の緑化材料を崩壊地へ散布して緑化する工法。

本発表は、高標高・寒冷地では植物の生育期間が短く、凍結融解等の影響を受け侵食を受けやすい等の条件下で、植物の初期生育の改善及び侵食防止力の向上を目的とする緑化材料の検討と試験施工の紹介及び、現地を計測し施工面積の把握する作業に苦慮する高標高で遠隔地の崩壊地で、ヘリコプターから撮影した連続写真を元に三次元モデル（立体画像）を作成し、現地計測を実施せず施工面積を迅速確実に把握する手法の可能性を紹介しました。

### 【治山シンポジウム】

2日目には「海岸防災林を考える ～東日本大震災から5年～」をテーマにしたシンポジウムが開催されました。

太田猛彦東京大学名誉教授から「海岸防災林再生の現状と課題」

東北森林管理局大野泰宏治山課長から「東北森林管理局における海岸防災林の復旧・再生の取組」  
森林総合研究所東北支所坂本知己

地域研究監から「津波後の海岸林研究」

の話題提供があり、座長に鈴木雅一東京大学名誉教授を迎え、有識者及びパネリストによる被災した海岸防災林の現状、復旧、再生等に向けた議論が活発に行われました。



2日目「治山シンポジウム」